



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙づて

最近届いたお茶の水女子大学の同窓会会報に、川上弘美さんの記事を見つけた。彼女は、理学部生物学科の同級生だ。「川上さん」も旧姓「山田さん」も言い慣れない。生物学科の同級生二十七人全員が、彼女のことを「ビー」と呼んでいたからだ。

作家と科学者。別の人生を歩むことになったが、川上さんとは意外に親しかった。他の同級生はドイツ語を選

択していたが、彼女と私を含む五人はフランス語を受講した。長い時間を共有し、いろいろな話題でおしゃべりした。

彼女はSF研究会に所属していて、その同人誌をいつも読んでいた。スター・ウォーズ全盛期を象徴する作品が多かったが、川上さんのは違っていた。

もり いくえ 郁 森 恵

大学の同級生

「おどろおどろしい」ストーリーや細部にこだわる描写が印象に残る。

十五年ほど前、同級生の集う新宿での新年会は、川上さんの芥川賞受賞と、私の論文が科学誌ネイチャーに掲載された祝賀会を兼ねていた。彼女と私は、お揃いの写真立てをプレゼントされた。同級生の差し出す芥川賞受賞作「蛇を踏む」に、万年筆をさっと出し、さらさらサインする彼女は新鮮で、まぎれもなく作家川上弘美がそこにいた。

川上さんは人間を知りたくて生物学科へ入ったという。人間とは、死とは何かについて、考えたいとのこと。

彼女と私の根底にある興味は同じ気がした。「人間とは何か」。作家と科学者。それぞれの立場から、答えを探す旅の途中にいるようだ。

(名古屋大学教授)

2011.4.8